

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 4月 15日

事業所名 多機能型事業所 きらめき読谷

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	4	バギーを外に出したり、医療機器の配置場所等事故にならないよう配慮している。	放デイの児童が帰ってくると活動スペースが狭くなるので、室内活動を分けて児童が過ごしやすい環境を工夫します。
	2	職員の配置数は適切である	5	3	見守りが手薄になる時は、活動内容などを変更している。	学校送迎でスタッフが抜けると人手が不足する時間帯がある。産休スタッフもいるので早急に職員の補充を予定している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	収納スペースを工夫し整理整頓を心掛けている。	バリアフリーではあるが床に物が多くあり(機械類も含め)つい立などが必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	3	感染対策に気をつけて清掃や寝具類の洗濯などをこまめに行っている。	開所前・開所後に掃除機、ハイター拭き、アルコール拭きを行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		多くのスタッフが参加できるようにシフト調整などしている。	事業所会議を設け全体で取り組んでいます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		貴重なご意見を参考に改善に繋げている。	意見箱を設置し、保護者からの意見を伺い迅速に対応を心がける。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1	ホームページで公開している。	結果を踏まえ、事業所会議を行い業務改善に努めている。ホームページで公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		8	部門を統括している職員による評価は定期的に行っている。	第三者による外部評価は行っていない。まずは、保護者からのご意見を参考に改善を図る。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		会社の共通研修受講や事業所内での勉強会を行っている。	できるだけ受講時間が取れるようにしたいが時間の確保が難しい時もあり受講にはバツキがある。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		普段から保護者との情報交換を心掛けて必要な支援が行えるようにしている。	モニタリング内容をまとめ職員で共有し、支援会議にてチームで計画書を作成。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	5	発達段階早見表を参考にしている。	可視化できるアセスメントツールを持っていないので見つけていきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1	ケース会議でたくさんの意見を出し、具体的な支援ないよう出来るようにしている。	児発管が中心に行っているの、今後はガイドラインの内容もスタッフと共有できるようにしていきたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		定期的なケース会議も行いながら計画書に沿った支援ができるようにしている。	今後も支援会議を行い、情報共有した上で個別支援計画書を作成し実践していく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		保育士を中心に立案を行っている。	事業所会議でもっとたくさんの意見が聞けるように話し合い組み込んで行く。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		やや固定化されている部分もあるが季節の行事を取り入れ楽しく参加できるように工夫している。	重心児への活動内容を支援学校等で見学し学んでいきたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	1	活動内容は個別又は集団の目標を立てている。	個別活動(知的・身体)で対応出来ない場合はグループで活動。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		朝の朝礼で一日の予定を確認申し送りをしている。	全員の時間が確保が難しい場合は事前に役割を決める。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	4	緊急の申し送りは送迎先から現場に連絡を入れている。	送迎時間がバラバラなので終礼は出来ないが必要な時その場で話し合うように時間の使い方を工夫する
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		日報、看護師記録、リハ記録を毎日残している。	日報に個別の支援記録を記載。その際出来たこと、出来なかったことを記載することで、振り返りが可能な状態にしている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	1	3ヶ月～6ヶ月おきのモニタリング会議実施	上記の日報を基に、達成状況を確認している。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児童発達支援責任者又は代理が参加	児童管理責任者、看護師、PTが参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	4	必要時は、相談員を通じて連携をとっている。	連携を増やしていきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	3	幼稚園、小学校、支援学校等とカンファレンスや支援会議等を行っている。	医療との連携が保護者を通してなので、今後一緒に会議等参加したい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	4	保護者からの情報を共有している。	月に1回嘱託医の回診があり連携している。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	関係機関との情報共有連携を行っている。	行政、学校との連携がまだ不十分なので体制を整えていきたい。また、一貫した支援を目指すため会議等への参加、支援計画書を情報共有していく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		関係機関との情報共有、連携をとっている。	学校と連携し、一貫した支援を目指すため会議等への参加、支援計画書を情報共有している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	5	行っていない。	外部講師を招いて勉強会を行う予定
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		8	行っていない。	感染対策に配慮しながら交流会を計画していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	6	機会があれば参加していく。	読谷村の子供部会に参加している。今後連携して活動を行っていきたく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		連絡帳や毎日の送迎時にデイの様子や情報交換を行っている	送迎時や連絡帳等で情報交換を行い、情報を共有しています。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	4	困っている事、支援についての意見をいつでも聞けるように心がけている。	必要に応じて個人的に行っている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		契約時に一緒に読み合わせし、疑問があればその場で応えられるようにしている。	難しい言葉など分かり易く説明できるように熟知していく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8		児童発達支援ガイドラインの支援内容と計画に基づいてサービスを提供している。	全職員にガイドラインの周知を徹底したい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		連絡帳や送迎時などに話が聞けるようにしている。	適切な支援の方向性を知るため、家庭では見せない児童の様子を随時報告し、定期的に面談や助言を行います。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	7	父母会を計画していきたい。	父母会を計画していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		迅速な対応を心掛けている。	相談等あれば迅速に対応している。また、連絡帳や送迎時での保護者との会話の中でこまめに報告している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	毎月行事予定表などを配布している。連絡帳やホームページにて発信もおこなっている。	児童の様子が分かるブログ発信やお便りなどを作成・配布したい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8		個人情報など重要書類は、鍵付きキャビネットの中に保管している。	鍵付きキャビネット以外にも、PCのパスワード設定にも工夫をしている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		絵・カード等、様々な工夫をして児童とのコミュニケーションを取っている。	日頃の関りや、保護者様には送迎時等に報告していきたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		8	将来的に計画していきたい。	今後、地域との連携も図ってきたい。将来的に計画していきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	1	各マニュアルを作成し定期的に研修を行っている。	マニュアルはあるが、保護者への周知がまだ不十分のため改善必要。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		年間計画に組み込んでいる。	年2回行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	8		保護者との連携をしっかりと行うようにしている。	契約時や病院受診後などに保護者に確認している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		契約時に確認を行っている。	今後アレルギー検査結果の提出を保護者に依頼していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		ヒヤリハット、事故があった時は、早い時期にスタッフで振り返りを行っている。	作成しファイルに保管済みだが、職員への周知が不十分のため周知を図ります。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	2	年間計画に虐待防止に対する研修を組み込んで研修会を行っている。	木曜日の共通研修にて実施し、今後は管理者も研修講師を行えるように、研修の底上げを図ります。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	1	必要な児に対して保護者説明し承諾書をもっている。	今後もやむを得ず、該当児童が発生した場合、保護者に3つの条件を説明し理解を図っていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。